

2003年2月6日

第03003号

株式会社 富士キメラ総研
代表取締役社長 表 良吉
〒103-0001 東京都中央区日本橋
小伝馬町2-5 F・Kビル
TEL 03-3664-5815
FAX 03-3661-5134
URL <http://www.fcr.co.jp>

次世代自動車開発に向かう自動車部品 部品材料実態調査まとまる

- ユビキタスカー向け車内LANが2006年250億円、約80倍市場に成長と予測 -

マーケティング&コンサルティングの(株)富士キメラ総研(東京都中央区日本橋 社長 表 良吉 TEL: 3664-5841)は、「2003年版 新自動車部品マーケティング便覧」(A4判216頁)をまとめた。調査は昨年9月～11月の間に弊社専門調査員が対象企業と関連業界に対する面接調査を中心に、関連文献、データベース分析を加えて行った。この報告書は、自動車部品63,および部品材料12品目について、市場概要、市場規模推移、マーケットシェア、自動車メーカーへの供給状況、モジュール化動向、次世代カー・42V化への取り組み状況、技術動向などを明らかにし、こうした事業戦略上の基礎データを提供することを目指した。

調査の総括

- ・2002年の国内四輪車生産は好調な輸出に支えられて2年ぶりに4.9%増に回復し、自動車部品市場もプラスに転じたとみられる。
- ・注目の次世代自動車のひとつ燃料電池車が昨年12月にリース車両として実用段階に入り、テレマティクスやカーエレクトロニクスが高度化するなか部品・材料メーカーも技術開発と共にコスト削減に向けた研究開発が積極化している。
- ・有機系材料ではプラスチックへの移行傾向が見られ加工成型が容易で、軽量化と低コストのメリットを追求、モジュール化による部品点数、加工工数の減少によるコスト削減にも積極的に取り組んでいる。
- ・無機系材料ではリサイクル性と軽量化に優位性を持つアルミニウム、マグネシウム合金の使用量が増加しており、加工技術の開発がさらなる市場拡大に必須となっている。
- ・このため部品メーカーは、海外競争力を高める共同開発や技術提携に積極的に取り組んで開発費の負担の軽減を図っている。
- ・今後、中国製自動車部品が低コスト、高品質を確保した段階で、日系部品メーカーにより日本に逆輸入され、中長期的には日本国内で生産している輸出車両についても中国での生産に移行することも十分考えられ、量産車種については自動車部品と同様に日本国内に逆輸入される可能性も出て来る。
- ・自動車の国内生産向け部品需要が減少していくことが予想され、日本国内では高付加価値部品の開発・生産に特化した産業構造に変化して行くことが不可避となっている。

主な自動車部品市場の展望

イモビライザー(盗難防止装置)

国内でもここ数年車両盗難件数の増加は社会問題となっており、盗難防止システムのニーズは間違いなく拡大している。今後バイオメトリクス技術を用いた認証システムを採用して行く段階で、部品メーカー、自動車メーカーの開発力による格差が出てくる事が予想される。

2001年75億円、2006年には254億円(対2001年成長率3.4倍)を予測

光ファイバーコントロールケーブル

現在光ファイバーを搭載した自動車は国内には登場していないが各メーカーでは、増加しすぎて車両軽量化の課題となって来たワイヤーハーネスに代わるものとしてこの採用を検討してきた。今後、カーナビゲーションやカーオーディオの高度化に伴い、車内で音声や映像の情報を伝送するようになれば、採用が進むものと予測される。

課題の一つは80度の耐熱能力を車載用では105～130度に上げる技術開発である。

2001年の実績なし、2004～2005年以降に市場が立ち上がり、2006年618億円を予測
車内LAN

車載電装品を比較的高速の通信方式で結ぶネットワークとして導入が検討され、欧州のメーカーではすでに採用が進んでいるが、国内では日産自動車、マツダなど一部のメーカーに留まっている。いくつかの通信規格がお互いに優位性を争っている段階であるため国内メーカーによる採用は2005年以降になると予測される。

2001年30千台、2006年に250万台(対2001年成長率約80倍)への搭載が予測される。

分野別概況

(A)エンジン関連部品

・自動車の生産台数が減少した2001年は3.4%減の1兆60億円となった。2002年は生産台数が1,026万台(対前年4.9%増)に回復し、エンジン部品分野も3.0%増の1兆364億円となる見込みである。

・環境保全の法的規制が段階的に強化されているため、エンジン関連部品は燃費効率を良くするための技術的アプローチと共に軽量化のための材料見直しが行われている。

・ディーゼルエンジン向けの環境対応部品として注目されているDPF(粒子状物質除去)装置については2005年以降急激な市場拡大が見込まれる。

(B)電装部品

・2001年1.1%減の2兆1,819億円であったが、2002年は1.3%増の2兆2,101億円の見込み。
・材料技術のアプローチとしては車載用白色LED市場の拡大が予想され、またカーエレクトロニクスの高度化により光ファイバーコントロールが2004年には市場形成すると見られており、今後の様々な新制御システムの採用によりECU(エンジン電子制御装置)市場も拡大する見込みである。

(C)駆動/伝達/操縦装置部品

・2001年2.7%減の1兆1,596億円となり、2002年は2.3%増の1兆1,864億円となる見込み。
・自動トランスミッション(AT)はすでに日本国内の乗用車の90%以上に採用されており、商用車のAT化移行も進むが乗用車のCVT市場拡大とともに2004年から縮小傾向を示すものと予測される。

(D)車体部品

・2001年1.0%減の8,303億円となり、2002年は1.8%増の8,454億円となる見込み。
・現在リサイクルシステムが構築されつつあり、ダッシュボードパネルやバンパーではリサイクル効率が良く、環境にやさしい樹脂が採用され始めている。

(E)機能部品

・2001年2.8%増の3,403億円、2002年は5.2%増の3,580億円となる見込み。
・安全性、快適性等を求めITS技術も応用した様々な新システム市場が立ち上がると推察される。

(F)通信装置/通信部品

・車の情報化が急速に進められており、2001年16.6%増の2,520億円、2002年は13.8%増の2,867億円となる見込み。

今後も通信式ナビゲーション、近距離無線通信(Bluetooth)、車内LANなど新たなシステムの採用と共にその関連部品市場の拡大が期待される。

調査分野 自動車部品、部品材料市場

<自動車部品>

- 1.エンジン関連部品(17品目)
 - 2.電装部品(17品目)
 - 3.駆動/伝達/操縦装置部品(11品目)
 - 4.車体部品(6品目)
 - 5.機能部品(7品目)
 - 6.通信機器/通信部品(5品目)
- 合計 63品目

<部品材料>

- 1.有機系材料(10品目)
 - 2.無機系材料(2品目)
- 合計 12品目

調査方法

各種統計資料と弊社データベースをもとに、専門調査員による参入企業各社への取材調査を行った。

報告書の構成

調査報告書は、総括編、個別市場編、材料編、基礎データ編の4編で構成されており、総括編では、まず6分野に分けて2000年から2003年までの全体市場規模推移を示し次に品目別に2006年までの規模推移を一覧表にした。次世代カーの生産規模推移も2010年まで予測数値を示して解説し、さらに省エネ/環境に関する日・欧・米の取り組み比較、部品のモジュール化動向、ユビキタス/テレマティクスなど自動車の情報化の動向を平易に説明した。

個別資料編では

- (1)エンジン関連部品で、ピストン、電子燃料噴射装置、DPF装置など17品目、
- (2)電装部品で、バッテリー、ヘッドライト、ECUなど17品目、
- (3)駆動/伝達/操縦装置部品で自動トランスミッション、ショックアブソーバー、など11品目、
- (4)車体部品でダッシュボードパネル、燃料タンクなど6品目、
- (5)機能部品でタイヤ空気圧警報システム、車間距離感知システムなど7品目、
- (6)通信機器/通信部品でカーナビ、ETC車載器など5品目

合計6分野63品目の部品と、部品材料を有機・無機系分野に分け12品目について調査結果を報告。

以上

「2003年版 新自動車部品マーケティング便覧」
- 次世代カーの普及によるサプライヤ戦略と自動車業界の現状を探る -
発刊日 2002年12月17日
体裁 A4判 216P
価格 :101,850円(本体価格97,000円 消費税4,850円)
調査編集 株式会社富士キメラ総研 第1研究開発部門 I&T研究室
発行人 表良吉
発行所:(株)富士キメラ総研
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F Kビル
TEL 03-3664-5815 FAX 03-3661-5134
この情報はホームページでもご覧いただけます。URL :<http://www.fcr.co.jp>

*****本件に関するお問い合わせは下記までお願いします。*****

(株)富士経済 広報部 平賀 TEL 03-5614-1078

(株)富士キメラ総研 第1研究開発部門 I&T研究室 加藤 良幸 TEL 03-3664-5815